

称号及び氏名	博士(看護学)	富田 亮三
学位授与の日付	平成31年3月31日	
論文名	初期キャリア形成期看護師におけるピア・コーチングに関する研究 —尺度開発とピア・コーチングが及ぼす影響の探索	
論文審査委員	主査	細田 泰子
	副査	長畑 多代
	副査	籀持 知恵子

## 論文内容の要旨

**【目的】** 初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度を開発し、ピア・コーチングが専門職的自律性と職業的アイデンティティに及ぼす影響を探索することである。

**【概念枠組み】** 文献的考察に基づき、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングが専門職的自律性と職業的アイデンティティに影響を及ぼすという概念枠組みを構築した。

### **【予備研究1】 初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングに関する内容の抽出**

**方法：** 同一部署に継続して勤務しており、同期看護師が同じ部署に所属している、社会人経験のない卒後3年目看護師15名を対象に、5名1グループでグループインタビューを行い、質的帰納的に分析した。

**結果：** ピア・コーチングの具体的行動として、**【絆を深める】****【同期を身近な目標とする】****【同期との関わりから生じる自発的な行動】****【ともに学び合う機会をもつ】****【同期を通じた自分なりのケアの模索】**の5カテゴリ、22サブカテゴリ、64コードが抽出された。また、ピア・コーチングにおける効果として、**【モチベーションの高まり】****【同期という心の支えの獲得】****【互いに高め合う存在への変化】****【自発的行動への変容】****【ケアの幅の広がり】****【同期と協力することによる成功体験】**の6カテゴリ、18サブカテゴリ、61コードが抽出された。

### 【予備研究 2】初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度の表面妥当性と内容妥当性の質的検討

**方法**：看護教育学の研究者で、臨床経験 5 年以上、臨床における教育経験があり、修士以上の学位をもつ者 5 名を対象に、尺度化したピア・コーチングの具体的行動の表面妥当性と内容妥当性について検討するために、専門家会議を行った。

**結果**：尺度項目の表現修正、統合、削除を行い、【同期を通じて援助方法を模索する行動】【役割・業務遂行について同期と理解を深める行動】【同期との関係を構築する行動】【同期を通じて学習へのモチベーションが高まる行動】に下位概念を修正し、59 の尺度項目を抽出した。

### 【本研究 1】初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度の内容妥当性の量的検討

**方法**：臨床経験 5 年以上で修士以上の学位をもつ看護師・研究者 10 名を対象に質問紙調査を行い、内容妥当性指数（content validity index：CVI）を用いて検討した。

**結果**：CVI が 0.78 以上の値を示す 55 項目を採択した。

### 【本研究 2】初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度の信頼性・妥当性の検討

**方法**：全国の一般病床数 200 床以上の医療施設に所属する卒後 2・3 年目看護師 1,052 名を対象に、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度原案、協同作業認識尺度、看護師チームのチームワーク測定尺度、個人属性からなる質問紙調査を実施した。信頼性は、内的一貫性（Cronbach's  $\alpha$  係数）、安定性（再テスト法）、妥当性は、構成概念妥当性（探索的因子分析）、基準関連妥当性（外的基準尺度との相関）を確認した。

**結果**：339 名（回収率 32.2%）から回答が得られ、318 名（有効回答率 30.2%）を分析対象とした。項目分析、因子分析を行い、【互恵関係の構築行動】【援助方法の共創行動】【援助方法の補填行動】【自己変容の促進行動】の 4 下位尺度 20 項目が抽出された。下位尺度の Cronbach's  $\alpha$  係数は 0.82~0.89 であった。協同作業認識尺度の「協同効用」との相関係数は 0.33 であった。「個人志向」「互恵懸念」とは負の相関または相関がないことが確認された。看護師チームのチームワーク測定尺度との相関係数は 0.33 であった。再テスト法では、下位尺度の相関係数が 0.67~0.79 であった。

### 【本研究3】初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングが専門職的自律性と職業的アイデンティティに及ぼす影響の探索

**方法**：全国の一般病床数 200 床以上の医療施設に所属する卒後 2・3 年目看護師 1,327 名を対象に、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度、看護師の自律性測定尺度、看護職へのアイデンティティ尺度、個人属性からなる質問紙調査を実施した。概念枠組みに基づき、多重指標モデルを作成して分析を行った。

**結果**：444 名（回収率 33.5%）から回答が得られ、328 名（有効回答率 24.7%）を分析対象とした。個人属性によるピア・コーチングの比較では有意差はなかった。共分散構造分析を行った結果、[ピア・コーチング] から [職業的アイデンティティ] へのパス係数が有意ではなかった。そのため、[ピア・コーチング] と [専門職的自律性] で多重指標モデルを作成し、修正指数と改善度を参考に、[互惠関係の構築行動] と [自己変容の促進行動] の誤差変数に共分散をかけて再分析を行った。その結果、GFI=0.968、AGFI=0.942、CFI=0.982、RMSEA=0.057 となり、すべてのパスが有意であった。[ピア・コーチング] から [専門職的自律性] へのパス係数は 0.23 であった。

**【倫理的配慮】**すべての研究は大阪府立大学看護学研究科研究倫理委員会の承認を受けて実施した（申請番号 28-01；28-67；29-20；29-36；30-02）。

**【考察】**初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度の信頼性および妥当性が検証された。初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングが専門職的自律性に影響を及ぼすことが確認された。ピア・コーチングにより専門職的自律性を育む可能性が示唆された。

キーワード：初期キャリア形成期、ピア・コーチング、専門職的自律性、尺度開発、看護師

Key words: initial career-development period, peer coaching, professional autonomy, scale development, nurse

## 学位論文審査結果の要旨

本研究は、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度を開発し、ピア・コーチングが専門職的自律性と職業的アイデンティティに及ぼす影響について探索することを目的としている。卒後2・3年目の初期キャリア形成期看護師の成長を促す支援は重要であり、同期入職看護師同士によるピア・コーチングは精神的負担が少なく、相互の成長を促すことが期待される。本研究は、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングに焦点を当て、その行動を測定する尺度を開発し、ピア・コーチングが及ぼす影響を検討した独創性が高い研究である。

初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度の開発では、卒後3年目看護師のグループインタビューの分析結果から尺度項目を作成し、看護教育学の研究者を対象とした専門家会議および臨床経験5年以上で修士以上の学位をもつ看護師・研究者10名を対象に内容妥当性指数の算出を行い、尺度項目の表面妥当性と内容妥当性を検討した。一般病床数200床以上の65医療施設に所属する卒後2・3年目看護師に質問紙調査を実施し、有効回答が得られた318名を対象に項目分析、探索的因子分析を行った結果、【互惠関係の構築行動】【援助方法の共創行動】【援助方法の補填行動】【自己変容の促進行動】の4因子20項目から構成され、内の一貫性と安定性による信頼性、構成概念妥当性、基準関連妥当性を有する尺度であることが確認された。本尺度は尺度開発のプロセスに沿って開発したもので、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングを測定することが可能な測定用具であることが示された。さらに、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングが専門職的自律性と職業的アイデンティティに及ぼす影響を探索するため、一般病床数200床以上の95医療施設に所属する卒後2・3年目看護師に質問紙調査を行い、有効回答が得られた328名を対象とし、本研究の概念枠組みに基づく共分散構造分析を行った。その結果、ピア・コーチングが専門職的自律性に影響を及ぼすことが確認され、効果的な教育的支援となり得ることが示唆された。本研究は、ピア・コーチングを用いた初期キャリア形成期看護師の育成に資する新たな知見を提供し、看護学の発展に寄与するものであると考える。

以上のことから、本研究は博士論文としての学術的価値を有しており、博士（看護学）の学位の授与に値するものと判断した。